



ニューズレターの概要

このニューズレターは、平成27年度に開催された「全国生涯学習ネットワークフォーラム」の後継事業として、震災からの復旧・復興や地域課題に取り組んでいる県内の関係者等の情報を共有し「学びをひろげ、つなげる、いかす」ため、年に2回発行するものです。

また、皆様方からも、日常的な取り組みや様々な企画のもと実施されたイベント等、生涯学習に関する情報ならどんなものでも結構です。多種多様な情報をぜひ当課までお寄せください。

今後も、互いに情報を共有し合い、継続的な取り組みが推進されるよう積極的につながっていきましょう。

地域の伝統と絆をつなぐ

「郡山市立中田公民館」

中田公民館（中田ふれあいセンター）がある中田町は、郡山中心部から東に20kmの地点に位置している。

「郷土愛を育む心豊かな人づくりまちづくり」を掲げ、地域の人々が集い、学び、結ぶことを基本理念に据えながら、生涯学習推進のために取り組んでいる。

中田公民館の様々な取組について、館長である宗像善夫さん、主事の佐久間緑さんからお話を伺った。



住民自らが目指す

「明るく住みやすい地域」

中田公民館では、「明るいまちづくり運動」を運営方針の一つに掲げている。この運動は、「明るいまちづくり推進委員会」が中心となり、企画運営されている。この委員会は、町にある各種団体が組織されている。その活動の一つが環境美化活動「花いっぱい運動」である。

「花いっぱい運動」は、郡山全域で行われており、地域の花壇、路側、学校花壇などに花の栽培を行っている。今年度も老人会、学校、消防署、

町内会等25団体が参加し、7月・8月に行われる審査に向けて活動した。宗像館長は、「地域独自の評価を行い、表彰する機会を設けるなど、参加者に意欲や関心を持つて取り組んでもらえるように工夫することも大切なことである」と語る。今年度も団体の部において、市の花いっぱいコンクールで最優秀賞を受賞している。これは、3年連続の受賞である。



植え付けから除草など、労力を要する活動であるが、皆さんが一生懸命取り組む

体験を通し、伝統をつなぐ

「海老根手すき和紙」

地域の産業としていた手すき和紙の需要が無くなり、昭和63年頃に一度途絶えてしまった。しかし、平成に入り、地元の小学校が総合学習の一環として体験学習を実施した。

講師は、地域に残っている経験者が努めた。公民館としても、地域伝統の掘り起こしや伝承していくことが大切だと考え、平成9年に伝承講座を開催した。現在は、地元だけでなく

く郡山市内から広く参加者を募っており、手すき体験だけでなく、植え付けから作品作りまで、一年を通して講座にしている。今年度は、大学生も参加している。「何とか伝承していくことができると担当の佐久間さんは語る。中田町にある二つの小学校では、卒業式に自分が作った和紙の卒業証書を受け取り卒業していく。

公民館の「強み」を生かす

今後の取り組みについて宗像館長に伺った。公民館の強みや、できることを実践していくことが大切である。各団体と連携を図り、公民館をベースとしながら、様々な事業をこれからも主催、共催していきたい。

また、子どもが減少している。昨今、様々な事業を行うには、学校の参加協力はとても重要である。「多くの事業に参加していただき、ボランティアとしても協力いただいているので助かります」と宗像館長は語っていた。



65年間続いている共催事業の駅伝大会 地域の方々の協力が支えている



浪江町の地域づくり団体

任意団体「なみとも」

浪江町は、福島県浜通りの北部に位置し、相双郡に属する。東京電力福島第一原子力発電所の事故により、町内全域に出されていた避難指示は、平成29年3月に帰還困難区域を除く区域で解除された。

「復興へと向かっていく浪江町で、町民が「幸せ」を感じることができ、町を指すことが、町づくり、地域づくりだと考える。」と力強く語る

のが、任意団体「なみとも」代表の和泉亘さんである。

これまでの様々な取り組みやこれからの展望についてお話を伺った。



人が集まる拠点づくり

ゲストハウス「あおた荘」

任意団体「なみとも」代表である和泉さんは、東日本大震災・原子力災害の影響により、避難所での生活を余儀なくされていた方々のサポートをするボランティア団体の一員だった。避難指示解除後からは、浪江町に帰還した方々のサポートを行うようになり、浪江町で活動する中で、

町民と話をする機会も増えた。その中には、立ち話ができる程度の施設しかなく、町民がゆつくり集まることのできる場所がほしいとの声もあった。地域づくりのためには、誰でも気軽に足を運び、お茶を飲みながら楽しく語らうことが出来る集会所のような施設が必要だと考えた。

その思いから浪江町への移住を決断し、自宅兼ゲストハウス「あおた荘」をオープンさせた。



町民が「わくわく」できる機会をつくりたい

任意団体「なみとも」は、町内で働いている20代前半から30代半ばの6人が主なメンバーとして構成されている。移住してきた当初は、若者が少なかったため、和泉さん、小林さん(浪江町に越してきた)の二人しかない状況だった。これまでの活動内容は、浪江町にある魅力や無くなってしまうものを再発見するために、区長さんや町に詳しい方に紹介していただく街歩きイベント「あるもの探し」。浪江町に移住定住を考えている人や、移住してきた人をサポートする「若者サポート活動」などを行ってきた。

また、「あおた荘」を利用して定期的に開催しているヨガ教室や英会話教室がある。代表である和泉さんは「町民や行政と連携して活動することも多い、お互いに支援や協力ができるような環境づくりも大切だ。」と語ってくれた。

準備をする
町民が集い、元気になる
流しそうめんを企画し、準備をする
メンバー イベントを企画・運営する



子どもたちが地域の人と関わる機会をつくりたい

地域の小中学生との交流活動も行っている。なみえ創成小中学校では、総合の学習の時間において、「大豆栽培とみそづくり」「えごま栽培」「花の栽培」を学習している。その中で、「えごま栽培」を学習している小学5、6年生の支援を行っている。和泉さんは、「食べ物育てることだけが大切なのではなく、食べ物育てることによって得るものがたくさんある。体験活動など様々な学習の中で、子どもたちが、地域の方々と関

わることは、地域づくり、町づくりにとっても大切なことだ」と語る。

地域づくりを進めるために

和泉さんは、「ゲストハウスあおた荘」を拠点としながら、町民が集うことで、交流やコミュニケーションが生まれて、楽しく生活することができるようになることが大切だと考えている。「ヨガ教室」には、自宅に一人で過ごす高齢者も参加している。「英会話講座」には、飲食店を営んでいる方が外国人のお客さんも来店するので学びたいと参加してくる。

「私は、町民の一人として、地域の声に耳を傾けながら町民がゆつたり交流できるような場や機会を作りたい。支援する側と支援してもらっている側に分かれることなく、お互いに支援できる環境を保っていきたい」と和泉さんは語ってくれた。

流しそうめんを楽しそうに、笑顔で味わう親子



